

平成30年度第1回千葉市文化芸術振興会議議事録

市民局生活文化スポーツ部文化振興課

1 日時

平成30年6月27日（水） 午前9時30分～12時

2 開催場所

千葉市議会 議会棟3階 第3委員会室

3 出席者

（委員）神野委員長、種谷副委員長、関委員、瀬崎委員、河野委員、廣崎委員、藤田委員、ジャブリ委員、鶴田委員

（事務局）那須生活文化スポーツ部長、小名木文化振興課長、渡辺文化振興課長補佐、川口文化振興班主査、島村主任主事、樺澤主事

4 議題

- （1）委員長・副委員長の選任
- （2）第2次千葉市文化芸術振興計画年次報告書について
（平成29年度実施状況、平成30年度実施予定）
- （3）文化施策の評価方法について

5 その他

- （1）平成29年度芸術文化振興事業補助金交付事業の実施報告について
- （2）平成30年度芸術文化振興事業補助金採択事業の概要及び日程について

6 議事の概要

- （1）委員長・副委員長の選任
委員の互選により、委員長に神野委員、副委員長に種谷委員が選出された。
- （2）第2次千葉市文化芸術振興計画年次報告書について（平成29年度実施状況・平成30年度実施予定）
第2次千葉市文化芸術振興計画の平成29年度実施状況及び平成30年度実施予定について報告し、意見交換を行った。
- （3）文化施策の評価方法について
文化施策の評価方法について意見交換を行った。
- （4）平成29年度芸術文化振興事業補助金交付事業の実施報告と平成30年度芸術文化振興事業補助金採択事業の概要及び日程について
平成29年度芸術文化振興事業補助金交付事業の実施報告と平成30年度芸術文化振興事業補助金採択事業の概要及び日程について報告し、意見交換を行った。

7 会議経過

【那須生活文化スポーツ部長】

<仮議長として議事進行>

それでは、委員の皆様にご承認いただきましたので、委員長と副委員長が決まるまで、仮議長として会の進行をさせていただきます。

議題に入る前に、本日は委員改選後最初の会議ですので、当会議の概要につきまして、事務局から説明します。

<事務局説明>

【那須生活文化スポーツ部長】

それでは、議題1「委員長及び副委員長の選任」を行います。

ただいま事務局から説明がありましたとおり、委員長・副委員長の選任は、千葉市文化振興会議設置条例の第4条第2項に基づき、委員の皆様の互選により選出することとされています。

どなたか立候補や推薦される方はいらっしゃいますか。

【廣崎委員】

はい。委員長には振興会議を長く経験されており、文化振興に深い思いを持っていらっしゃる神野委員を、副委員長には千葉市の文化芸術にとっても尽力されている種谷委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【那須生活文化スポーツ部長】

ただいま、廣崎委員から、神野委員を委員長に、種谷委員を副委員長にとの推薦がありましたが、いかがでしょうか。

<異議なし>

【那須生活文化スポーツ部長】

それでは、委員長は神野委員、副委員長は種谷委員に決定します。

仮議長を務めさせていただきましたが、委員長が選任されましたので、ここで委員長を交代させていただきます。神野委員長は委員長席に、種谷様は副委員長席に移動をお願いします。

<席移動>

【那須生活文化スポーツ部長】

神野委員長と種谷副委員長におかれましては、簡単にご挨拶をお願いします。

<神野委員長・種谷副委員長 挨拶>

【那須生活文化スポーツ部長】

ありがとうございました。それでは以降の議事進行は、神野委員長にお願いします。

【神野委員長】

千葉大学で芸術学を教えており、美術館の学芸員を10年程やった経験があります。専門は社会と芸術の関わりで、芸術体験が人や社会との関わりにおいてどのような価値を持つかということを中心に研究をしています。千葉との関わりは、千葉市美術館などと共同で千葉アートネットワークプロジェクトを運営していて、千葉市内で様々なテーマで活動しています。千葉は文化芸術の街という風に捉えられることは少なくとも残念に思います。様々な経験のある方々が、それぞれの持ち場で活躍していただければ、千葉市が少しでも活性化していくのではないかと思いますので、皆様のお力添えをお願いします。

それでは、議題2「第2次千葉市文化芸術振興計画年次報告書（平成29年度実施状況、平成30年度実施予定）について」事務局から説明をお願いします。

<事務局説明>

【神野委員長】

ただいま説明のあった内容についてご意見・質問等がありましたらよろしくをお願いします。

【ジャブリ委員】

Cの目標を大幅に下回った理由として、広報の方法に問題がある場合が多いということですが、千葉市の広報はまだ一元化されていないと思います。各家庭に配布されている市政だよりと一緒に各施設の情報が一元化された資料を配布するなどしたら良いと思います。

【神野委員長】

広報に関してはずっと課題になっています。

【小名木課長】

市政だよりは、以前は月2回新聞への折り込みでしたが、現在は月1回ポスティングで全世帯に配っています。一緒に施設関係の資料をお配りできるかどうか、市政だよりの所管課にご意見を伝えることはできますが、実現できるかどうかはお約束できません。

【神野委員長】

必要のある人に、整理された形で届くと関心をもって見ていただける。文化芸術のイベント情報がまとまった形の物があれば理想的であるということです。

【ジャブリ委員】

一元化された情報を冊子として、月1回は厳しいが、3か月に1回とか配布できたら良い。

【神野委員長】

できれば良いかなという感じですね。広報関係は予算の中で縮小している状況なので厳しいかもしれないが、充実させないと必要な情報が必要な方に届かないこともあります。ネットが使われることが多いですが、ご高齢な方には紙の媒体も必要です。

【ジャブリ委員】

ネット検索は、自分で関心を持ちキーワードを入れないと出てきません。各家庭に配布された情報は関心が無くても手に取って見てもらえるというメリットがあります。

【神野委員長】

引き続き、広報については検討していきたいと思います。

【廣崎委員】

A評価の中でも、予算がたくさんあるところとゼロのところがあるということはどういうことなのか。また、B評価の事業は、29年度から30年度に向けての向上心が見られない。B評価からA評価になるような努力が見られなかったということが全体的な感想です。最後に、同じようなボランティア活動なのに、予算としたら10倍位違うとか、細かいことがこの表ではよく分かりませんでした。

【神野委員長】

予算などを比較すると、ゼロのものがあつたりすることはどういうことなのかという質問と、同じ土俵で議論されることが妥当かどうかということもあります。ゼロであれば評価されるかもしれないし、予算が多ければ評価が厳しくなるというもあるかと思えます。この点について、事務局から説明をお願いします。

【川口主査】

事業費が低いものから高いものまで、一元的に議論していいかということはあるのですが、この達成度については、事業費が低い高いではなく、所管課の自己目標に対しどうかについて、ご議論いただければと思います。

【神野委員長】

質問ですが、事業費がゼロというのは、予算としては事業費を獲得できていないが 内部のやりくりで支出をしているという理解でいいのですか。

【川口主査】

はい、そういうものもあると思います。

【鶴田委員】

A評価の中でも広報で成功した事業について関心があります。どんな戦略で広報がうまくいったのか分かれば教えてください。

【川口主査】

P.12 基本施策5（1）魅力ある資源の活用4「市民ギャラリー・いなげ展示」ですが 達成度がAになっています。こちらは、指定管理者がマスコミ等に積極的に広報したり、ギャラリー・いなげは個別のホームページも持っており、積極的に周知を行っています。

【神野委員長】

こまめに情報発信して、直接届くように努力をした結果ということですね。

【ジャブリ委員】

広報の成功例に関するメソッドを、ある程度、各施設で共有できたら良いと思います。

【神野委員長】

うまくいっていない施設にとっては、有意義な情報になることもあります。それをシェアする方法を考えていくと利益は大きいのではないかと思います。

【川口主査】

所管している施設に成功例を情報共有して、改善に向けて努力するように伝えていきます。

【神野委員長】

この評価で取り上げられている中に、区民祭りなど毎年高い目標を設定することになじまない事業もありますが、美術館・文化ホール等では文化芸術事業を専門的にやっているの、高い目標への挑戦を期待しなければいけないと思います。区民祭りなどは文化芸術的な高い目標を設定することより、続けることに価値があるので、その点は分けて考えることも必要かもしれないと思う。渾然一体となっているので、どこを重点的に見たらいいか分かりづらいという点はある。

続いて、議題3「文化施策に評価方法について」事務局から説明をお願いします。

<事務局説明>

【神野委員長】

3つの事業の評価シートについて説明をいただきましたが、まずメディア芸術振興事業については、事業の形を変えてきた経緯があります。最初は千葉市動物公園等で映像などに関するイベントをやっていましたが、イベントをやっても千葉の文化芸術の発展に効果がないのではないかとということで、教育主体のワークショップを実施して、子供たちに参加体験してもらう方向にシフトしてきている事業

です。

千葉市美術館については、今までは借用作品を中心とした企画展示で人を集めることが花形と言われてきたが、やはり美術館の中心は美術館が持っているコレクションであり、そのコレクションを活かした魅力ある展覧会をどう作るかということを学芸員を中心に考えています。このような中でコレクションを使いながら、うらがわを見せるということで、高い評価を得た展覧会です。

千葉市民ギャラリー・いなげについては、5年位のあいだに大きく活動を変えてきたと捉えています。以前は地域の美術面の公民館のような色合いが強い一方で、施設の主催事業は強くなかったが、地域にあるギャラリーとしてどのような活動ができるのか色々と努力をしてきたり、広報で成果を上げて頑張っています。千葉にゆかりのある作家を取り上げた展覧会を、数年前からやっていて、これに関する事業です。

前回、それぞれの実施主体から出された自己評価について、委員の皆様から出た意見が反映されたものが、今回2次評価シート案として提示しているものになります。

これについて、ご質問・意見等がありましたらお願いします。

【廣崎委員】

メディア芸術振興事業の中で、応募状況が良かった理由として「チラシデザインが大きく関わっている」とありますが、そのチラシは本日ありますか。

【川口主査】

本日は用意していません。

【神野委員長】

デザインなどクリエイティブな仕事をしている人の集団が実施主体なので、「ななめな学校」という名称から関心を引くようにして、そのイメージを膨らませたチラシの構成になっており、デザイン的に洗練されていたと思います。

サイトも、動画や写真を使って魅力的なサイトを作っていたと思います。広報を意識した記録の取り方をしようまいなと思います。いくつかの授業を設定しており、それぞれウェブを通しての応募でしたが、すぐに埋まってしまう授業もあったと聞いています。

【ジャブリ委員】

ななめな学校の実施は美浜区だけですか。

【神野委員長】

一つの会場でいくつもの授業を行いました。色々な場所でできたらいいねという話はあったかと思っています。

【ジャブリ委員】

人気が高いのであれば、各区で実施されたらいいと思います。

【神野委員長】

懸念されるのは、実行委員会のメンバーは皆さん別の仕事を持っている方なので、何回もやることはなかなか調整が難しいと思うが、情熱がある方々なので多分やるのではないかと思います。美浜区の会場は千葉大のサテライトキャンパスになっていますが、元々学校であったこともあり使い勝手が良く、市と千葉大との協定の中で使っています。今後、千葉市美術館もリニューアルが検討されており、教育に特化したフロアも準備するとのことですので、そこと連携できればとの話しもあるようです。

【ジャブリ委員】

美術館のリニューアルというと、建て直しですか。

【神野委員長】

建物の区役所機能がきぼ一るに移り、空いた部分を美術館が使い建物全体が美術館になるということです。

【那須部長】

区役所機能を移転して単独の美術館にして、区役所があった部分をどのような機能にしようかということを検討しています。目指すところは2020年の時期に合わせていきたいと考えています。

【神野委員長】

現状、千葉市美術館で特別展をやると、すべて特別展になってしまい常設展示がありません。千葉市美術館の売りの一つとして、日本の近世絵画と江戸の浮世絵がありますが、外国のお客様に足を運んでいただきたいということもあり、これを機会に常設のフロアをつくることを考えられているのではと思っています。

【瀬崎委員】

2020年に向けて、千葉市において文化面で何か計画はあるのでしょうか。

【小名木課長】

文化プログラムの話だと思いますが、2020年に向けて何をやるか現在検討しているところです。

【那須生活文化スポーツ部長】

美術館では浮世絵とか海外の方に興味のあることをクローズアップした企画展を美術館で計画しておりますが、その他に何ができるかについては、広く意見を聞いている段階です。オリンピックはスポーツの祭典であると同時に文化の祭典でもあるので、その点は意識しながら進めていきたいと思います。

【神野委員長】

これから、議論を本格化していくということですね。

【瀬崎委員】

実体験として、私が懇意にしている指揮者の小林研一郎先生の奥様が千葉市出身で、先生を慕う人たちを中心としたオーケストラを千葉で結成し、スペシャルオリンピックスが白馬で行われた時に、知的障害者の選手団がいる会場で音楽を演奏しました。観客や選手などに向けて、様々なアプローチができると思います。おもてなしの場が重要で自分たちから出向いたり、交流手段を用意したりと千葉市という地の利を前面に打ち出して何かすると、千葉市として文化面での強いアピールができるのではないのでしょうか。

【神野委員長】

交流のねらいや目的に応じて、いろいろな階層の文化プログラムができるのではないかとということでしょうか。例えば、選手や観客でも海外から来た方や日本国内から来た方に向けてなど、個別に対応したきめ細かい文化プログラムを作って行くことが重要というお話です。

【河野委員】

商工会議所では、先週末に千葉公園で「夜ハス」というイベントを実施しました。また、商工会議所と千葉市、観光協会との合同で、8月3、4日にナイトタイムエコノミーということで、美術館等でイベントを実施したり、市内50店舗の飲食店で音楽やパフォーマーをやったりして、夜の街を楽しんでいこうイベントを社会実験的な形を進めています。これが上手くいけば、地域の活性化やオリンピック時のインバウンドに対するおもてなしにつなげていければということで今年から始めています。

【神野委員長】

重要な今後の話でもあり、表現をする人達と参加する人達をどうつないでいくか、いままでは文化施設と限定されていたが、面的な広がりや街の中をつないでいくことができるのと質的にも広がっていくのではないのでしょうか。

議題に戻りますが、今回の3事業の2次評価シートについては、ご承認いただくということでよろしいでしょうか。

<異議なし>

続いて、引き続き、議題3「文化施策に評価方法について」事務局から説明をお願いします。

<事務局説明>

【神野委員長】

今まで、評価方法について試行してきた中で、委員の皆様から出た様々な意見が反映されたものになっています。活性化の評価項目については、「地域の活性化」が文化事業の最初にくる目標ではなく、結果として、地域の活性化があるものであると考えられることから、評価項目としては、文化芸術活動そ

のものの活性化という表現に改められています。

また、2次評価シートの中で、指標として設定しているもの以外に付加的な良いことが出た場合にかいた方がいいのではないかとということで、その他の効果を記載いただけるよう改めています。評価シートは事業を評価するだけでなく、事業主体が活動を振りかえって、次に生かしていくプロセスでもありますので、この項目は必要ではないかと思えます。

いままで試行してきたことを踏まえて、今年度から試行ではなく評価を本格実施するということが、いかがでしょうか。

【藤田委員】

地域活性化を前面に出すことは、趣旨にそぐわないということはお話にもありましたように、文化芸術と地域活性化はリンクしているところがありますので、その他の効果のところに、例示として「地域活性化」と入れると少しはそういった視点が意識され、良いのではと思えます。

【神野委員長】

波及的な効果として、地域活性は重要視されているので、その他のところに意識できるよう書かれたらいいのではないということですが、いかがでしょうか。

【河野委員】

そのようにしていただけたら良いと思えます。

【神野委員長】

それでは、その方向でお願いします。

今後も評価していく中で、修正の意見等も出てくることもあるかと思いますが、その都度、この委員会で検討して修正していくことは可能ということで大丈夫ですか。

【川口主査】

はい、大丈夫です。

【神野委員長】

それでは、この形で本格実施していきたいと思えます。

続いて、「文化施策の評価にかかる今後のスケジュール」と「今年度の評価対象事業の選定」について説明をお願いします。

<事務局説明>

【神野委員長】

丁寧に評価をするということになりますので、一律に全事業の評価を毎年やることは無理なので、一

定の期間内に網羅的にすることでバランスよくチェックしていき、また、市が直接関わっている事業を中心に、かつ内容的に重要であると思われるものを見ていくことになると思います。

資料6（参考1）で、4年間を通して20事業を選定することの案を示していただいております。基本施策1から5までを網羅する形での提案になっています。これをベースに考えていくときに、今年度どの事業を評価対象とするのかということ議論していくことになるかと思っております。20事業というのは、前回議論いただきましてこの位でということになっております。

したがって、資料6で事務局から示していただいたように、基本施策1では、財団と若葉・美浜と美術館の事業の中から、それぞれ1事業ずつ選び、基本施策2では、財団と市の事業から、それぞれ1事業ずつ選んでいただくこととなります。

まずはご意見を伺って、特に意見が出ない場合には、事務局からの意見を伺って決めていくというところいかがでしょうか。まずは率直なご意見をお願いします。

【ジャブリ委員】

基本施策1の文化振興財団実施の5事業の中から1事業の選定についてですが、事業の内容の重要性で選定することは視点がいろいろあり、難しいと思いますので、予算規模と動員者数から選んでいくことが良いと思います。その考えでいくと、「ベイサイドジャズ千葉」が、来場者数が多く、事業費もかなりかかっていますので、この事業を推薦します。

【関委員】

そのような考え方もあるかと思いますが、以前は入場者数などの数値で評価していたものを、今回は今までとは違った評価にするといったときに、入場者数では測れないところの評価もあると思います。その辺を慎重にしなければいけないと思います。ただ入場者数が多いということで選んでしまうと、せっかく評価体系を細かくしていこうとしているのにそうではないんじゃないかということが出てくる気がする。個人としては、入場者数とかでは測れないような事業を評価した方がいいのではないかという考え方もあるのではないかと思います。

【ジャブリ委員】

先ほど入場者数と予算で提案させていただいたのは、市民に対する影響規模が大きいのが分かりやすいから提案しました。内容的な重要性ということでいくと、すべて重要だと思いますので、どういう視点で選ぶのが、分かりづらいと思います。

【神野委員長】

2つの側面があって、事業規模が大きいものをより良くしてもらおうということと、あまり予算が付いていないが良い事業をきちんと評価していく、どちらもありだと思う。

【関委員】

将来性の部分だと思う。入場者数や事業規模は大事だと思うが、どういう将来性を持ってやって行くのか、同じ感じで行くような事業を評価対象としていいのかということも考えた方がいいのではない

かと思えます。

【神野委員長】

財団の事業は2事業選ぶことになりましたが、例えば、基本施策1からは事業規模から発展性を検証するというのを考えて選び、基本施策2からはそれとは違った観点で、変わったことをやっていて、地味だけれど、地道にやっているような事業を選ぶというように、どちらを先にやるかということはありませんが、バランス良く選ぶという方法もあると思えます。

【関委員】

私もバランスだと思います。

【ジャブリ委員】

私も同意します。

【神野委員長】

どちらを先にやるのかですが、ベイサイドジャズは今後何か大きな変化が考えられますか。現状ではいかがですか。

【河野委員】

私は商工会議所としてベイサイドジャズの実行委員会に絡んでいますが、20周年を迎え、千葉港のクルーズ船でジャズコンサートを行うなど新しいメニューを広げたりしているものの、ジャズの好きな人には浸透しているが、広く市民に浸透しているかという点で難しい判断です。また、内容に大きな変化がなく、マンネリ化している印象もあります。そういう意味では、この場で新たな発展の方法についてご意見を聞かせていただきながら、次年度以降の実行委員会の中で活用させていただけると良いと思います。

【神野委員長】

マンネリ化ということがある中でこの指標で評価することが事業を再チェックするきっかけにもなるので、先にベイサイドジャズをやってもいいのではないかといいことですね。

【関委員】

ベイサイドジャズを2020年に絡めることもできると思いますので、そこをどうやって広げていくかということを含めての評価だと思います。

【河野委員】

2020年に向けて、実行委員会でも動いていますが、その前段階で早めに実行委員会の中だけでなく、この場でもご意見をいただいて活かされればと思います。

また、美浜区や若葉区は高齢化している地域なので、この評価対象候補となっている「いきがいく

り事業」がどのような事業なのかは分からないが、高齢者を対象にした事業をどのように進めているのか見てみたいと思います。

美術館については 改修していく中で、体験型のコーナーが計画されているようですので、現在、美術館で行われている体験型事業がどのように進められているのかという視点で見てみたいと思います。

【関委員】

基本施策1に関しては、予算規模も大きくて慣習的なものをこれからどのように変えていくのかという視点で選び、美浜区や若葉区では年配の方々を対象にしているものを、美術館では子どもや若者に向けたものとすればバランスも良いかなと思います。

【河野委員】

私もそう思います。

【神野委員長】

ベイサイドジャズに関しては、2020年にも重要な事業になるかと思っています。実施主体の意気込みもあるが、現状停滞している所もあるので今年度評価をすることで、2020年に向けたチェックや新しいビジョンを作ることに活かせるのではないかと提案がありました。

若葉区や美浜区の高齢化が進んでいることを考えると、いきがづくりは重要だと思いますが、これは具体的にはどういう事業ですか。

【川口主査】

主催者からは、高齢者が楽しめる参加・鑑賞型の事業を中心に展開すると聞いています。アマチュアアーティスト等にご協力をいただいてコンサートを実施することで、高齢者が元気をもって、コミュニティ形成、いきがづくりへとつながる事業を展開すると聞いています。

【神野委員長】

イベントをやって終わりになりがちな側面もあるので、評価を通じて次に何をめざすべきかを確認することは、いいタイミングという気がします。

美術館に関しては、若い人を対象にした事業ということでバランスを取るのが望ましいのではないかという関委員の意見がありましたが、そう考えると、小・中・特別支援学校鑑賞教育推進事業、中学校の職場体験学習、高校生の美術館体験プログラムになるのではないかと思います。いかがでしょうか。

小・中・特別支援学校鑑賞教育推進事業は、学生がバスで美術館を訪問する事業です。中学生・高校生の職場体験事業は学校教育との関わりがあるのでなかなか踏み込めない事業という気がします。高校生の美術館体験プログラムは、最近美術館に一番来ないのは高校生と言われており、その中で力を入れたいということもあるようですが、私見として、危険な提案をしてきたなと思います。重要な事業であるのは確かです。昨年的高校生美術館体験プログラムは千葉高校の美術部と連携を取りながら、方向性を探って準備をして進めたようです。

【ジャブリ委員】

質問ですが、高校生美術館体験プログラムは、高校ごとの応募や募集ではなく、個人の申し込みですか。

【島村主任主事】

昨年については、広く一般に募集をかけるのではなく、千葉高校の美術部の生徒に対象を絞って実施したと聞いています。

【渡辺課長補佐】

昨年度募集したときの資料をご覧いただくと、千葉高校あてに美術館から依頼した資料がございます。平成29年度高校生美術体験プログラムご協力をお願いとの形になっています。

【神野委員長】

高校生関連のものは、初めての取り組みかと思います。いきなり公募しても参加者が集まらないだろうということで、まずは高校生のニーズやどのような関わりに面白さを感じるのかを探るため、一番近い高校として声を掛けたと聞いています。今後、広く一般に公募して参加者を募るかどうか現状では分かりません。他の美術館でやっている高校生プログラムでも、高校の美術部の先生とのネットワークの中で参加者を集めるということをやっています。高校生自体は、枠組みが作られて参加したら面白いということはあると思うが、自分で主体的に参加しようとはなかなか思わないと思います。これを選ぶと、おそらく申し込みの仕方から評価対象になると思います。選べば向こうは考えなければならないと思うが、まだ取り組みを始めて2年目位だと思うので、もう少し取り組みをしてから評価してしてもいいのではないかという気がします。小・中・特別支援学校鑑賞推進事業は長くやっていて、応募した学校の先生と打ち合わせをして、バスをチャーターして美術館まで来て、鑑賞プログラムを体験して学校に帰っていくという事業ですが、これはもうそろそろ評価してもいいのではないかと思います。就学している時に美術館に連れていく家庭であれば美術館に頻繁に行くが、そうでない家庭では美術館には縁遠いので、規模は小さいですが、この事業は重要な内容を含んでいる。

【ジャブリ委員】

私も、千葉市は小・中・特別支援学校鑑賞教育推進事業に力を入れていると思いますので、こちらの事業でいいのではないかと思います。

【廣崎委員】

貧困の家庭が多い中で小学生や中学生は自分の家庭でお金を払って美術館に観に行ったり、コンサートに行けない家庭も多いと思いますので、そういう意味でもこういう事業を広げてほしいと思います。評価をして広がる可能性もあるかと思いますので、ぜひ、やってみたいと思います。

【鶴田委員】

実績のなかで、学芸員やボランティアスタッフの鑑賞リーダーとともに展覧会を鑑賞という所がポイ

ントかと思えます。ギャラリートークでは、館長や学芸員による講座とありますが、これも網羅しているので、小・中・特別支援学校のプログラムは良い対象になるのではないかと思います。

【藤田委員】

ボランティアが小・中学生に話すのが専門用語ではなく、分かりやすい言葉で話すことになり 美術館側のレベルアップになると思うので、評価するにはいいのではないかと。

【神野委員長】

それでは、基本施策1に関しては、財団の事業では「ベイサイドジャズ」、若葉・美浜の事業では、「いきがづくり事業」、美術館の事業では、「小・中・特別支援学校鑑賞教育推進事業」を、今年度の評価対象事業にしたいと思えます。

次に、基本施策2は財団の事業の中から1事業を選定することになりますが、何かご意見等をお願いします。

【関委員】

「ちば・まちなかステージ」とはどのような事業でしょうか。人材を育てるという観点からすると、これだけでは分かりませんが。

【川口主査】

「ちば・まちなかステージ」の事業内容は、若手のアマチュアミュージシャンやストリートパフォーマーを発掘・支援するため、中心市街地などの市民で賑わうまちなかの会場を確保し発表の機会を提供する事業です。

現在はそごう千葉店前の広場でやっていることが主になります。パフォーマンスの種類は特に決まっていませんで、ダンス、軽音楽、ギター等さまざまな分野の方が参加しています。

【神野委員長】

募集から実際の運営までを市民主体で行っているという事業ということですか。

【川口主査】

運営に関しては、文化振興財団が行っています。市民の皆様は文化振興財団の出演者募集のチラシを見て応募することになります。

【神野委員長】

演奏する機会を提供するという意味での育てるということですね。

価値のあることをやってそうだなという事業を積極的に評価することと、ちょっとどうかなという事業を評価することの両方の考え方があると思えます。

【ジャブリ委員】

ユースカルチャー支援事業で、中学・高校生を対象にヘア・メイク・衣装のコースがありますが、授業数も多くて人数も多いですが、若者の文化芸術活動の支援と書いてある割には、ヘア・メイク・衣装とかなり偏っているようです。文化芸術と捉えられるとは思いますが、あまりにも偏っており、事業費とのバランスも悪いので、評価した方がいいのではと思っています。

【神野委員長】

これは、コスプレ参加者のための事業ですか、それとも舞台に出演する人たちのための事業ですか。

【川口主査】

舞台の裏側の仕事を体験してもらい、舞台に総合的に興味を持ってもらうことが主旨です。コスプレのような印象を与えてしまうかもしれないが、高校生が興味を持ちやすいようなAKB関係の方や流行のファッションブランドの方に講師をしていただいています。

【関委員】

難しい所ですね。舞台に携わる者として、取っ掛かりとして、派手なメイクや衣装を着たいと思って集まってくださる方がいるのは有り難いですが、実際にそういう人たちがどこに繋がっていくかということが難しいところです。

【神野委員長】

財団は頑張ろうとしているのは分かるが、新しい事業の中には目的がどこにあるのかが見えにくい事業が多い。関委員がお話したとおり、取っ掛りとして悪くはないが何処へ連れていこうとしているのかがこの事業の中では見えないですよね。本当に機能しているのかチェックする必要がありますので、先行してユースカルチャー支援事業をやりましょうか。

【ジャブリ委員】

事業概要が若者の文化芸術活動支援になっていますが、事業内容がずれていますよね。特化しているのは舞台芸術で、一般化して書いているのもよくないと思います。

【神野委員長】

本当のところをきちんとチェックしましょう。ユースカルチャー支援事業を本年度は行うことにします。

次に、基本施策5は千葉市の2事業から1事業を選定することになりますが、まずは事務局より事業説明をお願いします。

<事務局説明>

【神野委員長】

計画の中では、千葉市の事業は4年間で1事業ということになっています。

車椅子アートプロジェクトは2020年のオリンピック・パラリンピックを意識している事業になっていますので、この時を逃すと評価するタイミングがなくなってしまいます。

一方でおススメ・カルチャー・プラットフォームは大丈夫かなと思うところがあります。

タイミング的には車椅子アートプロジェクトと思いますが、おススメ・カルチャー・プラットフォームについては、今後どのように見直していくかという点について議論されてきたことはありますか。

【川口主査】

おススメ・カルチャー・プラットフォームは、高校生が主体となって、募集から発表の場まで主体的に活動するというのがテーマでしたが、昨年はやっと事業の形が定まった状況だったため、高校生が主体的に入り込むという場面を作ることができませんでした。昨年の反省を踏まえて今年は企画・運営にも積極的に高校生に参加していただくとう話しているところです。

【藤田委員】

車椅子アートプロジェクトは、昨年取材で実際に見てきたが、単発のショー的な色合いが強いので、文化事業という意味では、今後のことを考えると、継続的に取り組んでいく高校生の事業の方がいいのではないと思います。

【ジャブリ委員】

私としては、車椅子アートプロジェクトを押ししたいと思います。2020年オリンピック・パラリンピックの関連事業ということもありますし、バランス的に障害者視点は重要です。ショー的な色合いが強いということであれば啓蒙的な視点を導入していく、修正していくという意味も込めて評価対象としてはどうかと思います。

【関委員】

すごく難しい問題で、チラシの書き方にしても障害者も健常者も一緒になって表現するという表現はあまり良い書き方ではないような気がします。その辺を検証したいという感じがします。

このままだとパラリンピックの考え方と合わない感じになっていくと思います。

【鶴田委員】

千葉市の電動車椅子のメーカーは良く取り上げられていますが、私は直接には接していないので、これはぜひやってみたいなと思います。

【瀬崎委員】

障害とは何かを考える活動に携わっていますが、健常者の方が障害のある方々と触れあう、知識を持つ、体験する場所が少なすぎて、日本では障害のある方々を分けて生活することが当たり前の環境があるために、蔑視してしまう環境が育っている。障害を知り、障害を一つの個性と捉えることができれば良いと思う。障害者を見世物にするイベントではなく、別のアプローチをしていくべきではないかと思っています。

私はいろんな障害を持っている方々と一緒にオーケストラをやっていますが、一緒に旅をする、一緒に泊まることによって、どういうハンディがある人がどこに苦労しているということを知ることが重要だと実感したので、助け合う時に何が必要かを知ることができ大切であることの気づきを広げる一つのきっかけになるイベントを千葉市で開催できれば、パラリンピックの前の大切な文化になるかなと思います。

【神野委員長】

藤田委員は実際にご覧になってショーの性格が強いので、実際に高校生達がやることを評価する方がいいのではないかとのご提案ですが、ショーになってしまっているところを検証してみたいという意見があるかと思います。皆さんの意見を総合すると、2つの事業のうち、今年度は車椅子アートプロジェクトを行うということでいかがでしょうか。

瀬崎委員のお話にもありましたが、障害者との関係をどのように社会が築いていくかがもっとも大きな課題であって、ただステージに立たせることが目的ではなく、そこにはいろいろなアプローチ、いろいろな視点が必要である。その点がきちんと検証されていることが大事なような気がしますので、その点について評価に取り組みたいと思います。

議題3「文化施策の評価方法について」は皆さんにご議論いただいたとおりに進めていきたいと思えます。

【ジャブリ委員】

基本施策の年度毎の割り当てに関して、33年度までは20事業を評価することで良いかと思いますが、34年度以降に関しては、すべての事業に関して評価していくことが必須になってくるのではないかと思います。そうではないと、事業をやればなしになってしまうので、やはり評価は必要かなと思います。評価をするための委員会を作ったらよろしいかと思います。

【神野委員長】

今お話しいただいたことは最もなことで、今後4年間で評価を重ねていく中で、評価に関する振り返りを、どの年度かで行かなければならないと思います。その際に平成34年度以降にどのような体制で評価をしていくのか、ご提案のあったような独立した委員会を立ち上げていくのか、あるいは今までのようにいくつか事業を選んでそれを他の事業に波及させていくのかを検証することになると思います。すべての事業を評価したほうが良いという前提に立ちながらも、この評価手法の検証を行っていく中で決めていくのかなと思います。

評価対象事業が決定しましたが、私達が実際に事業を見ることも重要だと思いますので、視察要望がありましたら事務局の方で手配をしていただけないかということです。

最後に事務局から、芸術文化振興事業補助金について説明があるとのことですので よろしくお願します。

<事務局説明>

【神野委員長】

それでは以上で本日の議事は終了します。